

ベクトル解析演習 演習問題 (4) ベクトル関数の積分と空間曲線の長さ (解答編)

担当: 金丸隆志

学籍番号:

氏名:

[問題 1] ベクトル関数の積分

重力加速度ベクトル  $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -g \end{pmatrix}$  の元で、質量  $m$  のボールをある方向に投げ上げたときの運動方程式は、ボールの位置ベクトルを  $\mathbf{r}(t)$  として

$$m \frac{d^2 \mathbf{r}(t)}{dt^2} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -mg \end{pmatrix}$$

である。物体の初期位置ベクトルを  $\mathbf{r}(0) = \mathbf{r}_0 = \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$ 、

初速度ベクトルを  $\mathbf{v}_0 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}$  としたとき、時刻  $t$  におけるボールの位置ベクトル  $\mathbf{r}(t)$  の成分を求めよ (ボールが地面にぶつかる時刻までの式のみで良い)。

[問題 1 解答]

加速度ベクトルは  $\mathbf{a}(t) = \frac{d^2 \mathbf{r}(t)}{dt^2} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -g \end{pmatrix}$  である

から、

$$\begin{aligned} \mathbf{v}(t) &= \int \mathbf{a}(t) dt \\ &= \begin{pmatrix} \int 0 dt \\ \int 0 dt \\ \int (-g) dt \end{pmatrix} \end{aligned} \quad (1)$$

$$= \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \\ -gt + C_3 \end{pmatrix} \quad (2)$$

となる。 $C_1, C_2, C_3$  は積分定数である。(1) 式から (2) 式の変形において、 $\mathbf{0}$  の不定積分は  $\mathbf{0}$  ではなく積分定数が現われることに注意しよう。ここで、 $t=0$  に

おける初速度ベクトル  $\mathbf{v}(0) = \mathbf{v}_0 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}$  を代入

すると、

$$\begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \\ -g \cdot 0 + C_3 \end{pmatrix}$$

より  $C_1 = 1, C_2 = -2, C_3 = 2$  が得られるので、

$$\mathbf{v}(t) = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -gt + 2 \end{pmatrix} \text{ となる。これを積分して}$$

$$\mathbf{r}(t) = \int \mathbf{v}(t) dt = \begin{pmatrix} \int 1 dt \\ \int (-2) dt \\ \int (-gt + 2) dt \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} t + C'_1 \\ -2t + C'_2 \\ -\frac{g}{2}t^2 + 2t + C'_3 \end{pmatrix}$$

ここで、 $t=0$  のときの初期位置が  $\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 0 \end{pmatrix}$

であることに注意すると、 $C'_1 = 3, C'_2 = -2, C'_3 = 0$

と定まる。以上から、 $\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} t + 3 \\ -2t - 2 \\ -\frac{g}{2}t^2 + 2t \end{pmatrix}$ 。

なお、一般に初期位置を  $\mathbf{r}(0) = \mathbf{r}_0 = \begin{pmatrix} x_0 \\ y_0 \\ z_0 \end{pmatrix}$ 、初

速度ベクトルを  $\mathbf{v}_0 = \begin{pmatrix} u_0 \\ v_0 \\ w_0 \end{pmatrix}$  としたときは、

$$\mathbf{r}(t) = \frac{g}{2}t^2 + \mathbf{v}_0 t + \mathbf{r}_0 = \begin{pmatrix} u_0 t + x_0 \\ v_0 t + y_0 \\ -\frac{g}{2}t^2 + w_0 t + z_0 \end{pmatrix} \text{ とな}$$

ることに注意。

[問題 2] らせんの長さ

位置ベクトル  $\mathbf{r}(t) = \begin{pmatrix} a \cos t \\ a \sin t \\ bt \end{pmatrix}$  が時刻  $t=0$  から

時刻  $t=T$  までに描く曲線の長さ  $s$  を求めよ ( $a > 0$ )。

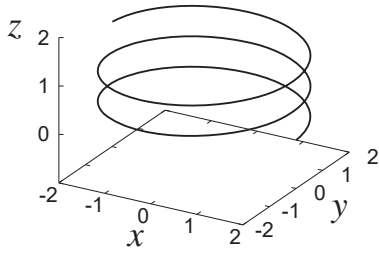


図 1:  $a = 2$ 、 $b = 0.1$  の場合のらせんの図。問題を解く場合は  $a$ 、 $b$  の文字を用いたまま解くこと。

[問題 2 解答]

定義通り計算すれば良い。 $\mathbf{r}'(t) = \begin{pmatrix} -a \sin t \\ a \cos t \\ b \end{pmatrix}$  より、

$$\begin{aligned}
 s &= \int_0^T \sqrt{(-a \sin t)^2 + (a \cos t)^2 + b^2} dt \\
 &= \int_0^T \sqrt{a^2(\sin^2 t + \cos^2 t) + b^2} dt \\
 &= \int_0^T \sqrt{a^2 + b^2} dt \\
 &= [\sqrt{a^2 + b^2}t]_0^T \\
 &= \sqrt{a^2 + b^2} T
 \end{aligned}$$

なお、 $b = 0$  を代入すれば  $s = aT$  となり、これは半径  $a$  とラジアンで測った角度  $T$  の積なので、円弧の長さを与える式である。